

第1回 (2020年度) 日本セラミックス協会功績大賞受賞者

そ が なおひろ
曾我 直弘 氏



曾我直弘氏は、無機化学と固体物理の理論や知見をもとに、セラミックスの化学結合力・構造と物性の関連や機能性ガラスの研究を行い、セラミックスの科学技術の進歩・向上に多大な貢献をした。本協会に於いては、1984年度～1999年度の16年間にわたって理事を務め、特に、国際交流理事として国際交流事業活動推進に尽力し、部会長としてガラス部会や基礎科学部会の発展に貢献した。また、1994年度～1996年度には副会長、1997年度には会長を歴任した。2000年度以降は顧問として、また、2010年度以降は経営諮問会議委員として会長に適切な助言を行い、協会運営に大いに貢献した。国際的な活動としては、1974年の京都での国際ガラス会議では学術と運営の両委員会のセクレタリーとして、また2004年の会議では運営委員長として尽力し、1994年から3年間国際ガラス委員会会長を務めた。

以上、同氏は本会における活動を通じてセラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げるとともに、長年にわたって日本セラミックス協会の活動と運営に極めて多大な貢献をした。よって、日本セラミックス協会功績大賞として表彰する。

略歴 1962年京都大学大学院工学研究科工業化学専攻博士課程修了。同年渡米し、米国アメリカンスタンダード社中央研究所所員、コロンビア大学ラumont地質研究所員を経て、1967年ライス大学助教授。1970年京都大学工学部助教授、以後教授、工学部長を経て定年退官。1998年滋賀県立大学工学部教授、2001年(独)産業技術総合研究所理事、2005年滋賀県立大学学長、大学法人化により2006年理事長併任、2012年3月任期満了退職。日本学術会議第17・18期会員、国際ガラス委員会会長、日本化学会副会長、粉体粉末冶金協会副会長、日本材料学会理事、日本環境科学会理事、新エネルギー・産業技術開発機構(NEDO)技術評価委員会委員長、文部省外国人留学生等選考協力者会議委員等歴任

受賞歴 1968年4月米国セラミック学会 Ross Coffin Purdy Award、1978年5月窯業協会学術賞、1983年4月米国セラミック学会フェロー表彰、1993年3月日本化学会賞、5月粉体粉末冶金協会功績賞、1999年6月東京応化科学技術振興財団向井賞、2004年9月 ICG President Award、2005年4月米国セラミック学会 Distinguished Life Membership、日本材料学会名誉会員、2008年5月日本化学会フェロー

協会歴 1984年度～2000年度理事(1994年度～1996年度副会長、1997年度会長)、2000年度～顧問、2010年度～名誉会員